

伊丹市養護教諭部研究会グループ研究会

A班グループ員：	松田 弥生 (伊丹小学校)	高橋 優子 (伊丹小学校)
	村田 成江 (稲野小学校)	天野 美佐代 (南小学校)
	石川 美由紀 (南小学校)	岡本 尚美 (南小学校)
	安部 梓 (神津小学校)	中谷 孝子 (緑丘小学校)
	福井 千栄 (桜台小学校)	関本 則子 (天神川小学校)
	大森 明美 (笹原小学校)	千葉 怜依 (笹原小学校)
B班グループ員：	篠崎 葉子 (瑞穂小学校)	笠谷 はるか (有岡小学校)
	升井 嘉澄 (花里小学校)	片山 美奈 (昆陽里小学校)
	内藤 久理子 (摂陽小学校)	丸山 弥生 (鈴原小学校)
	小林 理加 (荻野小学校)	宮崎 奈津子 (池尻小学校)
	大西 郁美 (鴻池小学校)	山口 亜梨紗 (伊丹特別支援学校)
	小山 真由子 (東中学校)	フォス 智恵美 (西中学校)
C班グループ員：	坂上 寛子 (南中学校)	田中 淑子 (北中学校)
	村井 仁美 (天王寺川中学校)	衣笠 和子 (天王寺川中学校)
	池田 千佳 (松崎中学校)	大村 由布子 (荒牧中学校)
	富岡 美佐子 (笹原中学校)	蔭木 恵子 (伊丹高等学校)
	岩崎 好美 (伊丹高等学校)	

担当指導主事：八東 伸明

キーワード：養護教諭の役割 情報交換 食物アレルギー 掲示物 SNS

1 研究テーマ

「養護教諭の役割と機能を考える」

2 研究内容

(1) 全体会

兵庫県養護教諭研究会連盟、伊丹市学校保健会、伊丹市健康診断検討委員会、伊丹市アレルギー対策委員会の協議事項や連絡事項について共通理解を図った。また、健康相談活動、健康教育、保健室経営などについて情報交換を行った。

(2) 班別研究

① A班(小学校)

ア 研究テーマ：「食物アレルギー対応訓練の実践」

イ 内容

今年度、各小学校にアレルギー対策委員会が分掌化された。伊丹市のアレルギー対応マニュアルに従い、個々のアレルギー対応プランに沿って、指導や対応を行っている。

それに伴い、誤食などの緊急時の対応訓練の必要性も強く感じ、緊急時の対応について、教職員の支援体制等どのような役割があるかを具体的にイメージしやすいように、シミュレーションの検討を行い、実践した。

ウ 成果

(ア) 食物アレルギー対応は日頃から緊急時に対応できるようにその手順を理解しておくことが大切だと意識を高めることができた。

(イ) シミュレーションの流れを作成したことで、各学校の実態に合わせ変更でき、他の教員にも実践しやすい資料を作成することができた。

② B班(小学校・特別支援学校)

ア 研究テーマ：「子どもの興味を引く掲示物の工夫」

イ 内容

子どもたちが、より興味をもつ掲示物にするためにはどう工夫すればよいのかを検討した。その中で、一人では作りづらい立体的な掲示物を制作した。

ウ 成果

(ア) 立体的な掲示にしたことで、子どもたちの目に入りやすく、興味を持ちやすい掲示物を作成できた。

(イ) 示物をきっかけに効果的な保健指導について研修を深めることができた。

③ C班(中学校・高等学校)

ア 研究テーマ：「中学生における SNS 使用の現状と危険性について」

イ 内容

(ア) 市内 8 中学校の 1～3 年生(抽出クラス)を対象に、「SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の使用について」のアンケート調査を実施し、集計を行った。

(イ) 集計に基づき、調査結果の考察を行った。

(ウ) 伊丹市学校保健研究協議大会で、取り組み発表を行った。

ウ 成果

(ア) 生徒たちの SNS 使用の現状を知ることができ、指導の際に役立った。

(イ) アンケート調査結果報告は、生徒、保護者、教職員への啓発になった。

(3) 夏季研修会

日時 平成 27 年 7 月 28 日(火) 13:30～16:45

内容 講演 演題 「心の元気の作り方」

講師 志縁塾 代表取締役 人材活性プロデューサー 大谷 由里子 氏

(4) 伊丹市養護教諭研究協議会

日時 平成 28 年 2 月 16 日(火) 13:30～16:45

内容 研究発表 各班が 1 年間取り組んだ研究を発表

講演 演題 「性別違和をもつ児童生徒に対する理解と援助」

講師 大阪医科大学神経精神医学教室 准教授 康 純 氏

3 成果と課題

(1) 成果

全体会では、情報交換や課題の共通理解を通して、保健室や養護教諭の役割を確認することができた。班別研究では、養護教諭の専門性を活かした取り組みや、調査研究により子どもたちの抱える健康問題の実態を把握することができた。また、研究協議会を開催することにより校種を超えて問題意識を共有し、さらに研究を深めることができた。

(2) 課題

研究で取り組んだ内容については、校内体制の整備や保健指導の充実など実践につなげていく必要がある。家庭や関係機関の協力が必要な場合も多いので、連携と支援についても養護教諭としての役割を考えていきたい。今後も多様化複雑化する健康課題を把握し適切に対応できるよう情報収集につとめ、研修・研究をすすめながら実践を重ね、養護教諭としての力量を高めていきたい。